

令和7年度 学 校 経 営 計 画

八王子市立七国小学校
校 長 長 田 猛

1 学校経営の基本理念

急速かつ劇的に変化する次代において、主体的・協働的・創造的に「よりよく課題を解決し行動、改善する資質・能力」や、多面的・多角的視点から「持続発展可能な社会づくり」に貢献する力を身に付けることが学校教育の喫緊の課題である。本来学校での学びは学校教育で閉じるものではなく、実生活や実社会、子供たちの未来に活きるものでなくてはならない。

本校、家庭、地域社会が「未来への挑戦」を共通目標とし、長期的な視点で社会に開かれた教育課程を編成・実施・改善することで、知・徳・体をバランスよく育み、時代の変化に対して折れることのない「幹」の育成と、しなやかな「個性の伸長」に重点をおいた「人間教育」を推進する。

〈教育目標〉

＜自分を伸ばします＞ ○すすんで学びます ◎心をみがきます ○体をきたえます

- ① 「すすんで学ぶ子」を育成するため、実生活・実社会と関連づけた主体的・探究的な学びを推進する。
- ② 学校生活や社会生活を創りながら「心をみがく子」を育成するため、基本的な社会性を身に付け「日本一優しい学校」づくりに向けた児童の主体的な取組を推進する。
- ③ 「体をきたえる子」を育成するため、めあてをもって努力し協力して解決や達成をめざす態度と心身の健康づくりを推進する。

2 めざす学校像 ～『未来に挑戦する日本一優しい学校』～

「未来に挑戦する日本一優しい学校」を共通目標に、学校・家庭・地域が協働することにより

- ① 学びの主体である「子ども」の成長に向け、チームで伴走できる学校
- ② 生きた学びを通して、主体的・協働的に「次代に挑戦できる力」を身に付ける学校
- ③ 学校全体で「心理的安全性」を担保し、「優しさ」や「あたたかさ」に包まれた学校
（不登校児童・家庭への包括的支援、いじめ防止等の組織的取組の徹底を含む）
- ④ ねばり強くやりとげられる健康・体力を身に付ける学校
- ⑤ 縦（学びの連続性）と横（地域協働）の仕組みを最大限に活かし、子どもの育成を長期的・包括的に図る学校（「七国地区学園都市構想」の推進）
- ⑥ 教育課題に常に正対し、子ども・教職員がTry&Errorによる「よりよい学校づくり」にチームで挑戦できる学校
- ⑦ 生きる上で必要となる人間性や社会性を身に付ける学校
- ⑧ 時代の変化とともに、「教育の本質」を追い求める学校
- ⑨ 学校を核として、全員（子ども、教職員、保護者、地域全体）が成長できる学校

3 めざす児童像（⇒手立て）

- ① 自己発揮・自己実現しながら「すすんで学ぶ子」
自分の考えを大切にもって、自ら追究し、友達と学び合うことで自らの学びを深める子
○「主体的・対話的で深い学び」の推進 【子どもたち自身が学びを獲得できる授業】
⇒①『目標』を明確にして、「良質な課題設定」を行うことにより、②子ども達が主体的に自力解決（調べる、解決方法を考える、予想し確かめる等）し、③対話や発表を通し、個の学びを「共有」する過程で、「多様なモノの見方や考え方」を獲得し、④共通点等に着目し、「整理」（分類、統合）する過程で、「単元を貫く『仕組み』や『概念』」に気付き、⑤獲得した「単元の仕組みや概念」（または、「気づきの観点」、「解決の方法」）を、他事象（他単元）の課題解決に活用 できる力を培う授業づくり
・仕組みや概念の「気づきの観点」（「見方・考え方」）の蓄積と他事象（他単元）での活用

- ・校内研究を核に「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業づくり、ICT の効果的活用
- ・対話場面の「内容」と「方法」の両輪
(または、Why「目的」(何のために話し合うのか)、What「内容」(何について)、Who「相手」(誰に・誰が)、How「方法」(どうやって))
- ☞土台として「学び合い、高め合える学習集団」づくり
 - ・クラス全員が分かって、初めて「分かった」と言える学級 (教え合える)
 - ・一人一人の思いや意見が尊重される学級 (認め合える・出し合える)
 - ・個の間違いを全体の学びに昇華できる学級 (安心して間違いえられる)
 - ・**集団効果を最大限に活かした学び (異学年、興味・関心・習熟度等によるグループ編成)**
- 探究的・課題解決的な学び、個別最適な学習の推進**
 - ☞**実生活、実社会と関連付けた学び** (実生活や実社会、子ども達の未来に生きる学び)
 - ☞各教科等における主体的な学びと、教科横断的な学び(探究)の融合
 - ➡個別最適な学習 (習熟の程度に応じた学習、興味・関心を活かした学習)
 - ※子どもによる ICT の利活用、学び方や探究課題の選択
- 子ども自身が「学び方を身に付ける」学習へ**
 - ☞子どもによる「学習手順の獲得」と「学び方が選択できる授業」づくり。
 - ・「教える」行為は最も学習効果が高いことを土台に、子供による学びも教え合いを授業で最大限活用できないか(「教える教師」から「支える教師」へ)
- 地域教育資源を最大限に活用した学びの推進(「地域とともに学ぶ」)
 - ☞地域における「良質な体験」(ヒト、モノ、コト)との出会い、ねらいに沿った「気づき」
 - ☞主体的な課題解決と未来への挑戦(「八王子市未来デザイン 2040」の活用)
- 学びにおける「Try&Error」の保障
 - ➡Try&Error 過程に最大の学びと成長がある・・・
- ② 学校生活や社会生活を創りながら「心をみがく子」
 - 学校全体で児童、教職員の「心理的安全性」を担保し、「優しさ、あたたかさ」に包まれた学校、「よりよい学校」づくりへの挑戦を繰り返し、目標の到達を図る。
 - 子どもと教職員の「心理的安全性」の担保
 - 全教育活動を通した「心」の育成、規範意識の醸成(型の指導と心の耕しの両輪)
 - ☞「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底
 - 児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を包括的に支援することで子ども達の成長の機会とする。
 - ☞「日本一優しい学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・協力を大切に、子供に惜しみない愛情をかけることで子供の心理的安全性を担保する。
 - 自尊心・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成
 - ➡全教育活動を通して自尊心や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。
 - 「いじめ防止」の徹底
 - ☞「いじめ対応は第一優先」。いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応
 - いじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。子ども・保護者が安心して相談できる体制を確保するとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U 調査、保護者からの連絡等で、子供や保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的な解決を目指す。

☞教員が子どもと直接向き合う時間を確保（経営支援部を中心とした校務精査）

☞児童のコミュニケーション能力の向上と児童・生徒主体のいじめ防止の取組の充実

○「子どもが主役の学校」（「自分たちがつくる」学校）

☞子供が「学級・学校づくりの主体」（⇒（将来）地域・社会づくりの主体へ）

・学級・学校・地域等の課題について、仲間とともに、主体的に考え、判断し、行動、改善

③ チャレンジの気持ちをもって「体をきたえる子」

○家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と、日常的な健康・安全教育、食育の充実

○体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実

○「体幹」を鍛えよう（c.f.授業中の姿勢）

4 めざす教師像

○一人ひとりの子どもに対し、愛情を存分に注ぎ、子ども達の成長の支援者として横を歩く教師
チームとして「人間理解に基づく組織的指導・支援」を徹底

子どもの不適応（二次障害）を起こさせないスキル獲得と組織対応

○子供たちが将来安心して社会自立できるよう、必要な資質・経験を身に付けられる教師

子ども達が将来「必要とする力」を常に考え、教育活動を通し創造的に挑戦できる教師

○目標に向かって「チーム」で協働できる教師

「七国小の子どもはみんなで育てる」

評価者にならず、チームで知恵を出し合い協同し解決する習慣（クラスの課題はみんなの課題）

○「授業で勝負できる教師」

教科の本質的な面白さに気付かせ、「主体的・対話的で深い学び」（学びの質）に挑戦できる教師

※教師主導型授業から、「サポート型授業」「個別最適な学習」の開拓

○「実生活・実社会と関連付けた学び」に挑戦できる教師

学校での学びは学校教育で閉じるものではなく、実生活や実社会、子供たちの未来に生きるものでなくてはならない

○教師自身が「Try&Error」を恐れず、子ども達にも「Try&Error」による学びを保障できる教師

○子どもの成長のために、保護者、地域と「連携・協働」できる教師

保護者の思いの受け止め。協働と信頼関係の構築（保護者と力を合わせて子どもを成長させる）

子どもの学びを支える地域資源の開拓・活用

○社会性と教育者としての高い倫理観

○安心して学べる環境（いじめの防止、授業規律、言語環境、安心して失敗できる授業）づくり

○幼稚園・保育園（スタートカリキュラム）から、小中9年間（小中一貫教育）、将来の視点で、子どもを学びの躓きを把握し、教育活動を工夫・改善できる教師

○「あること」から出発できる教師

5 校長の約束（教職員が安心して子どもの教育に専念できるために）

○子どもの将来に必要な資質・能力の育成のために、向かうべき目標・方針を明確に示します。

○教職員の「心理的安全性」を担保します。苦しい対応について管理職が積極的に関わります。

○教職員の「Try&Error」を保障します。

○教職員一人一人の長所を伸ばし活かすことで、学校の組織力を向上させます。

○授業にやりがいと手ごたえを感じられるよう、教育活動の支援・助言に取り組みます。

○教職員が子どもの教育活動に専念しやすいよう、教育活動の重点化と精査を進めます。

○教職員及び家庭が心と体の健康を維持できるよう必要な業務配慮に取り組みます。

○教職員一人一人のキャリアプランを丁寧に支援します。

○いつでも相談にのります。校長も「チーム七国」の一員として考え、判断し、行動します。

○学校支援体制の充実に取り組みます。（家庭・地域との協働体制）

6 中期的な目標と方策（令和6年度から令和8年度の3ヵ年）

①「生きる力」の育成（学びの質の向上）

目 標	方 策
〈確かな学力の育成〉 すすんで学びます ＜自己発揮・自己実現＞	○「主体的・対話的で深い学び」の実現 校内研究を軸に実生活・実社会と関連付けた「主体的・対話的で深い学び」～ICTの効果的活用～を模索する。実践重視（R6,R7 校内研究） ※「実生活・実社会に生きる学び」の推進 実生活・実社会上の課題と関連付けて学ぶことで、児童が主体的に概念や仕組みに気づき実生活・実社会上の課題解決に活かす学習過程を推進する。 ○「個別最適な学び」の推進 ICTを効果的に活用し、「習熟の程度に合った学習」、「興味・関心を活かす学習」、「自分に合った学習方法」の選択の機会をもたせることにより、児童が自ら「学び方を学ぶ」ことができるよう指導方法の工夫・改善を行う。 ○「学び合い、高め合う学習集団」づくり 安心・信頼できる学級経営を土台に、落ち着いて学ぶことができる学級（授業規律）づくりを行う。子どもの主体性を高め、「学び合い、高め合う学習集団」を形成する（「児童サポート型授業」の開拓）。学びにおける「Try&Error」を保障し、集団効果を最大限に活かした学びの開発を進める。 ○「探究的な学び」の推進 地域教育資源を有効に活用し、「八王子市未来デザイン2040」との関連を図りながら、人とのかかわりや体験を積極的に取り入れ、情報を収集・整理する過程で、児童が学習課題を見付け解決・提案し未来を切り拓く探究的な学習を重視する。 ○「学び方を身に付ける」学習 子どもが主体的な学習ができるよう、子どもによる「学習手順の獲得」と「学び方が選択できる授業」づくりに取り組む。（学習支援者としての教師） ○小中9年間を見通した「確かな学力」の育成 「学力向上プロジェクトチーム」（小中一貫教育）を核に、小中学校9年間を見通した学習の躰みや指導法の違いを共有し、協議を重ねることにより、小・中学校による切れ目のない学びの在り方を追究する。 ※「全学年一部教科担任制」の導入 ※効果的な家庭学習・授業規律・ノートの取り方、ICT活用等の共有 ○基礎・基本的知識・技能の定着 はちおうじっ子ミニマムの習得に向け、学力向上委員会で組織的に、学力調査分析を丁寧に行い、組織的に習熟度に合わせた学習や家庭と連携した補習に取り組む。 ・補習学習の充実（朝学習（週2回）、読書タイム（週1回）。 ・家庭と連携した「はちおうじっ子ミニマム」の習得に向けたドリル学習 ○GIGAスクール構想を踏まえたICTの効果的活用 小通学校9年間の系統スキル表を活用し、児童の情報活用能力を向上させるとともに、一人一台タブレット端末を活用した、「個別最適化された未来型の学び」を模索する。教員のICTの活用技能の向上について校内研究、ICT委員会による研修、OJT研修に位置付ける。 ○学びにおける「Try&Error」の保障 子ども達の主体的な学びを推進するために、教師と子どもの Try&Errorの機会を尊重し、主体的な学びの獲得の機会を最大限に支援する。

〈豊かな心の育成〉 心をみがきます ＜学校生活や社会生活を創る＞ 「日本一優しい学校」づくり	○子どもと教職員の「心理的安全性」の担保 ○「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底 児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を包括的に支援することで子ども達の成長の機会とする。 ○全教育活動を通じた「心」の育成、規範意識の醸成 「日本一優しい学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・協力を大切にし、子供に惜しめない愛情をかけることで子供の心理的安全性を担保する。型の指導と心の耕しの両輪を図ることにより子ども達の規範意識を醸成する。 ○自尊感情・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成 全教育活動を通して自尊感情や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。 ○「いじめ防止」の徹底 「いじめ対応は第一優先」とし、いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応により、いじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。 子ども・保護者が安心して相談できる体制を確保するとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U調査、保護者からの連絡等で、子供や保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的な解決を目指す。 経営支援部を中心とした校務精査により、教員が子どもと直接向き合う時間を確保する。児童のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、児童・生徒主体のいじめ防止の取組の充実を図ることで、いじめが発生しにくい学校づくりを推進する。 ○「子どもが主役の学校」（「自分たちがつくる」学校） 子供は「学級・学校づくりの主体」であり、将来、地域・社会づくりの担い手となる。小学校段階から学級・学校・地域等の課題について、仲間とともに、主体的に考え、判断し、行動、改善する活動を教育活動に計画的に取り入れる。 ○ 地域で安心して成長できる学校生活、社会生活づくり ・幼稚園・保育園と連携したスタートカリキュラムの作成、活用 ・七国中学校と連携した生活指導 ・地域の方々との交流の推進 ○ 自らの生き方について考え行動する力の育成 ・「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進や、「考え議論する道徳」を要に、自らの生き方について考え行動する力を培う ○ 心を動かす体験、豊かな感性の醸成 ・全学年自然体験教室の実施。各教科等における体験活動や植生物の観察芸術・文化活動、地域の方々との交流等の充実を通し、子ども達に豊かな感性を培う。 ○ リーダーシップ・メンバーシップの育成 ・縦割り活動や異学年交流の工夫・改善 ○ 交流及び共同学習の推進 ・通常学級と特別支援学級の意図的・計画的な交流及び共同学習の推進 ○ 郷土愛の醸成 ・八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等についての交流・体験を通じた郷土学習の推進。「まちづくり」への主体的な参画
---	---

〈健康・体力の育成〉 体をきたえます ＜チャレンジ＞	○<u>家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育、食育の充実</u> 健康な生活習慣の確立に向けた健康教育、食育等を家庭・地域と連携して取り組む。「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関わる安全教育を徹底し、身近な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとることができるよう育成する。郷土教育の一環としての「食育」の充実を図る。食物アレルギー対応の徹底を図る。 ○<u>体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実</u> 「七国小学校 体力向上ハンドブック」の作成及び全学年での活用、体育実技研修会及び中学校体育との連携を通し、体育授業の改善を図るとともに、運動の日常化を目指した「朝の体力づくり時程」、全校で縄跳び運動等、「七国小学校2020レガシー」（鉄棒）と連想した取り組みを進める。 「体幹」を鍛えるため授業中の姿勢についても全校での共通指導とする。
持続可能な社会の担い手を育てる	○<u>持続可能な社会の担い手を育てるSDGsとESDの推進</u> SDGsを実社会・実生活を見る窓としてとらえ、自立心・判断力・責任感等の人間性や他者及び自然環境との関係性を認識できる持続可能な社会の担い手を育むため、主体的・実践的・創造的な活動を展開する。 ・SDGsに関わる学習を通し、時代に必要とされる資質・能力を育成する。 「世界へ目を向け、問題を発見する力」「必要な情報を自ら調べ選択する力」「正解のない問題に立ち向かう力」
小中一貫教育、キャリア・未来デザイン教育の推進 地域の力を活かした教育活動を推進	○<u>「七国地区学園都市構想」の推進</u> 東京家政学院大学と連携高校、近隣保育園・幼稚園、七国中学校との連携による学園都市構想への着手。地域の教育資源を最大限活用した地域教育力の向上。 ○<u>小中一貫教育の推進</u> 「八王子市小中一貫教育に関する基本方針」改定の趣旨を踏まえ、地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通して、七国中学校と小中一貫教育を切れ目なくつなぐ教育活動を計画・実施する。 ※児童会と生徒会連携による あいさつ運動 及び ユニセフ募金、児童・生徒の交流を目的とする「小中ふれあいタイム」、部活動見学及び中学校授業体験、生活科七国中学校探検、合同学校保健委員会、青少年対策七国地区委員会の清掃活動等の地域行事への合同参加。 ○<u>「八王子未来デザイン2040」の活用と「保護者・地域協働型キャリア教育」</u> 「八王子未来デザイン2040」の趣旨を踏まえ、「未来の八王子」のまちづくりに児童が主体的に参画し、自分の「やりたい」に挑戦しながら笑顔で自分の道を歩めるよう、地域教育資源を最大限に活用したキャリア教育活動を展開する。 ○<u>地域教育資源の最大活用による学校教育力向上</u> 豊かな七国地域の教育資源の開拓・活用に努め、総合的な学習（探究学習）を中心に、「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）と、ねらいに沿った「気づき」を通して生きた学びを獲得させる。 ○<u>学校教育支援活動の充実</u> 子どもの育成に直接かわる、学校教育支援活動学校コーディネーターの効果的活用による、学校支援活動の充実、地域ボランティア等の拡充・育成

7 令和7年度の取組目標と方策

①「生きる力」の育成（学びの質の向上）

目 標	方 策
〈確かな学力の育成〉 すすんで学びます ＜自己発揮・自己実現＞	★『学力向上推進計画』の策定・実施 「七国小学校 学力向上推進計画」に基づき、学力向上委員会において本校の学力上の課題を明確にし、小中学校間で共有するとともに、学校全体および学年共通の実効的取組を協議し、確実に実施することで、学力向上を図る。
	○「主体的・対話的で深い学び」の実現 研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現～ICTの効果的活用を通して～」の校内研究（年間講師：東京学芸大学 森本教授）2年次として、Try&Errorによる活気ある校内研究を目指すことで、教師一人一人の授業の面白さへの気づきを基にした授業力向上への動機付けを行う。
	※「実生活、実社会に生きる学び」の推進 校内研究での取り扱いとして、実生活・実社会上の課題と関連付けて学ぶことで、児童が主体的に概念や仕組みに気づき、実生活・実社会上の別事象の課題解決に活かす学習を推進する。
	○「個別最適な学び」の推進 習熟度に対応した学習の推進：学力の二極化の対応として『学力向上推進計画』に「基礎・基本の定着」と、「伸びる子をより伸ばす」の2本軸に重点をおき、学習用端末ドリルを活用した学習、復習・発展問題への取組などを位置付け、学校共通および学年共通の取組として確実に実施する。
	興味・関心を活かした学び：一人一人の興味・関心を生かし、各教科等において関心のある内容について学習用端末や教科書、図書を活用し、調べる、学級で共有し、考えを広げる、関連付けながら深めるなどの学習を推進する。
	○「学び合い、高め合う学習集団」づくり 安心・信頼できる学級経営を土台に、安心してともに学び合える学級（授業規律 安心して間違えられる 意見を安心して発表できる 互いに教え合ったり助け合ったりできる）づくりを行う。子どもの主体性を高め、「学び合い、高め合う学習集団」を形成する（「児童サポート型授業」、「ミニティーチャー」の開拓）。学びにおける「Try&Error」を保障し、集団効果を最大限に活かした学びの開発を進める。
	○「探究的な学び」の推進 地域教育資源を最大限有効に活用し、「八王子市未来デザイン2040」との関連を図りながら、人とかかわりや体験を積極的に取り入れ、情報を収集・整理する過程で、児童が学習課題を見付け解決・提案し未来を切り拓く探究的な学習を重視する。
	○「学び方を身に付ける」学習 子どもが主体的に学び方を獲得できるよう、子どもによる「先生体験」や、「自分に合った学び方を選択できる授業」、「自分に合った学び方を計画し実行してみる機会」（家庭学習を含む）づくりを試行する。（学習支援者としての教師）
	○小中9年間を見通した「確かな学力」の育成 「学力向上プロジェクトチーム」（小中一貫教育）各分科会での協議内容を深化させ、小中学校9年間を見通した学習の躰みや指導法の違いを共有し、協議を重ねることにより、小・中学校による切れ目のない学びの在り方を追究する。本校の校内研究への中学校教員の参加を通し小中学校が指

	導法を相互に学び9年間を通した効果的な学びを共有する。 ※「全学年一部教科担任制」または「交換授業」等の導入 ※効果的な家庭学習・授業規律・ノートの取り方、ICT活用等の共有 ○基礎・基本的知識・技能の定着 学力の2極化傾向への対応として、学力向上委員会を中心に学力分析を行うとともに、日常の授業改善、学習用端末を用いた個別最適学習、補習学習重点期間、朝学習等、学校での共通取組、学年での共通取組を協議し、確実に実施する。 ○GIGA スクール構想を踏まえたICTの効果的活用 学力向上委員会ICT担当により、年度初めにICT系統表を共有し、校内研究部と連携し教員ICT研修を年間通し計画・実施する。各学年ICT活用場面一覧表を作成・活用し、年度末に改定を行うことで、各学年の習熟度に合わせた個別学習を行うとともに、効果的なICT活用を系統的、継続的に図る。 市「GIGA スクール推進校」兼都「デジタルを活用したこれからの学び推進校」に校内研究部として取り組み、ICTを効果的に活用した授業力向上につなげるとともに、東京都教育委員会作成資料を日常的に実践し、市内学校のGIGA スクール構想の推進と、実効的・効果的なICT活用の発信に寄与する。 ○学びにおける「Try&Error」の保障 子ども達の主体的な学びを推進するために、教師と子どものTry&Errorの機会を尊重し、主体的な学びの獲得の機会を最大限に支援する。
〈豊かな心の育成〉 心をみがきます ＜学校生活や社会生活を創る＞ 「日本一優しい学校」づくり	★『心理的安全性の確保』と『人間理解に基づく組織的指導・支援』の徹底 ○子どもと教職員の「心理的安全性」の担保 「日本一優しい学校」を合言葉に、優しさに溢れた学校を子ども、教職員が協働し創り上げる。 ○「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底 児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして迅速な情報共有、丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を早期かつ包括的に支援することで、子ども達の成長の機会とする。 ○全教育活動を通した「心」の育成、規範意識の醸成 「日本一優しい学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・協力を大切にし、子供に惜しめない愛情をかけることで、子供の心理的安全性を担保する。全教育活動を通して型の指導と心の耕し（意味の理解）の両輪を図ながら、トップダウン、ボトムアップによる効果的な育成を目指す。 ○自尊感情・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成 全教育活動を通して自尊感情や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。各学年における「コミュニケーションスキルトレーニング」の時間をはじめ、特に児童間のトラブル時は、互いの気持ちに重点をおいた聞き取りにより情報整理し、「自分の気持ちの伝え方」や「注意の仕方」、「気持ちの確かめ方」、「ヘルプの出し方」等、子どもとともに考え、子どもの自立的な成長につなげる。 ○「いじめ防止」の徹底 「いじめ対応は第一優先」⇒「即日解決」を基本とし、児童や保護者の「不安を把握した段階」で、迅速に情報を共有し、一刻も早い不安の解消を組織的に行う。 いじめ対策委員会を核とした迅速かつ組織的対応により、いじめ防止に努めるとともにいじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。 子ども・保護者が安心して相談できる信頼関係づくりを進めるとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U調査、保護者からの連絡等

	で、子供や保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的な解決を目指す。 経営支援部を中心とした校務精査により、教員が子どもと向き合う時間を確保する。児童のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、児童・生徒主体のいじめ防止の取組の充実を図ることで、いじめが発生しにくい学校づくりを推進する。 ○「子どもが主役の学校」(「自分たちがつくる」学校) 子供は「学級・学校づくりの主体」であり、将来、地域・社会づくりの担い手となる。小学校段階から学級や学校・地域等の課題について、特別活動の時間を中心に、主体的に考え、判断し、行動、改善する活動を教育活動に計画的に取り入れる。 ○ 地域で安心して成長できる学校生活、社会生活づくり ・「七国地区学園都市構想」の推進 地域教育力を長期的かつ最大限に活かした教育活動、活力ある街づくりの推進 ・幼稚園・保育園と連携したスタートカリキュラムの活用、改善 ・七国中学校と連携した生活指導 いじめ防止、学校生活のきまり、学習用端末活用のきまり等の協議 ○ 自らの生き方について考え行動する力の育成 ・「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進(6年)や、探究学習における地域の方々との交流 「自ら考え議論する道徳」を要に、自らの生き方について考え、行動する力の育成 ○ 心を動かす体験、豊かな感性の醸成 ・全学年自然体験教室の実施。各教科等における体験活動や植生物の観察芸術・文化活動、友達や地域の方々との交流等の充実を通し、子ども達に豊かな感性を培う。 ○ リーダーシップ・メンバーシップの育成 ・縦割り活動や異学年交流の工夫・改善 ・「より良い学級・学校・地域づくり」の主体として、考え、話し合い、実行・改善する活動を通し、リーダーシップ・メンバーシップの育成を図る。 ○ 交流及び共同学習の推進 ・通常学級と特別支援学級の意図的・計画的な交流及び共同学習の推進 ○ 郷土愛の醸成 ・八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等についての交流・体験および探究活動を通した郷土学習の推進。「八王子未来デザイン2040」を活用した「まちづくり」への主体的な参画意識の醸成
〈健康・体力の育成〉 体をきたえます ＜チャレンジ＞	○家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育、食育の充実 健康な生活習慣の確立に向けた健康教育、食育等について、家庭・地域と連携した取組を重視する。避難訓練や安全指導を通し「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関わる安全教育を徹底し、身近な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとることができるよう「型の指導」の習得とともに、「自ら考え判断・行動する力」を育成する。郷土教育の一環としての「食育」の充実を図る。食物アレルギー対応の徹底を図る。 ○体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実 「七国小学校 体力向上ハンドブック」の作成及び全学年での活用、体育実技研修会及び中学校体育との連携を通し、体育授業の改善を図るとともに、運動の日常化を目指した「朝の体力づくり時程」、全校で縄跳び運動等、「七国小学校2020レガシー」(鉄棒)と連想した取り組みを進める。 ○けがの未然・再発予防や怪我をしにくい体作り、感染症の予防について、養

	護教論を中心とした実際の学校での実態を共有し、教育活動を工夫するとともに、保護者や地域への情報発信に努める。 ○「体幹」を鍛えるため授業中の姿勢についても全校での共通指導とする。
持続可能な社会の担い手を育てる	○<u>持続可能な社会の担い手を育てるSDGsの推進</u> SDGsを現在・未来の実社会・実生活を地球規模で見る窓としてとらえ、「世界へ目を向け、問題を発見する力」「必要な情報を自ら調べ選択する力」「正解のない問題に立ち向かう力」を育成する。
小中一貫教育、キャリア・未来デザイン教育の推進 地域の力を活かした教育活動を推進 【七国地区学園都市構想への着手】	○<u>「七国地区学園都市構想」の推進</u> 東京家政学院大学、近隣保育園・幼稚園、七国中学校、連携高校、地元企業との連携による学園都市構想への着手することで、七国地域の教育資源を最大限活用した地域教育力の向上を目指す。 年3回関係者会議を開催し、相互の組織理解と信頼関係を構築するとともに、WinWinの関係を模索し、効果的な取り組みをすることで持続発展可能な構想づくり、組織作りを最重点取組として推進する。 七国地区学園都市構想の実現に向け、学校運営協議会と協議を重ね、「地域学校支援本部」の設置、学校コーディネーターの役割の明確化に取り組む。 ・学校運営協議会委員としてR7に東京家政学院大学を加えることにより、より機動的な縦の仕組みの構築 ○<u>小中一貫教育の推進</u> 「八王子市小中一貫教育に関する基本方針」改定の趣旨を踏まえ、地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通して、七国中学校と小中一貫教育を切れ目なくつなぐ教育活動を計画・実施する。 ※児童会と生徒会連携による あいさつ運動 及び ユニセフ募金、児童・生徒の交流を目的とする「小中ふれあいタイム」、部活動見学及び 中学校授業体験、生活科七国中学校探検、合同学校保健委員会、青少年対策七国地区委員会 の清掃活動等の地域行事への合同参加。 ○小6ギャップへの対応 ○<u>「八王子未来デザイン2040」の活用と「保護者・地域協働型キャリア教育」</u> 「八王子未来デザイン2040」の趣旨を踏まえ、「未来の八王子」のまちづくりに児童が主体的に参画する力を身に付けるとともに、保護者を含む地域の様々な方々の生き方を学ぶ機会をもつことで、自己の「生き方」を深く考え、主体的に将来に挑戦する力を身に付けるために、地域・保護者等の地域教育資源を最大限に活用したキャリア教育活動を展開する。 ○<u>地域教育資源の最大活用による学校教育力向上</u> 豊かな七国地域の教育資源の活用に努め、総合的な学習（探究学習）を中心に、「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）と、ねらいに沿った「気付き」を通して生きた学びを獲得させる。 ○<u>学校教育支援活動の充実</u> 子どもの育成に直接かかわる、学校教育支援活動学校コーディネーターの効果的活用による、学校支援活動の充実、地域ボランティア等の拡充・育成